

競合カテゴリ比較編

一般社団法人 全国包装米飯協会

Vol.1 2017.5

全国包装米飯協会通信

【特集1】包装米飯 VS 冷凍ご飯

炊いたご飯と遜色なく、 楽しておいしく食べら れる包装米飯は、掛け たコストに見合う優れ ものである

即食系主食カテゴリーの中で、包装米飯はどのような価値を持たれているのか。今回グループインタビューで聞いた各ユーザーの話から、特に「冷凍ご飯」ユーザーと対比しつつ、その価値を明らかにしたい。

面倒な炊飯からの解放 —炊かなくてよい包装米飯・まとめて炊く冷凍ご飯

炊き立ての白いご飯に勝るものはないことは分かっているものの米を炊くのは面倒、と思う人は意外に多いようである。特に仕事を持つ人は、帰宅後の「洗米」→「浸水」→「炊飯」の手間と時間を惜しむ声が多くの人から聞かれた。また、一人で食べる時は「何もしたくない」と、包装米飯や冷凍ご飯と残り物などを活用して昼食を済ませることも多い。包装米飯ユーザーの単身女性には「白いご飯も前は炊いて結構冷凍していたが、パックご飯のおいしさに気づいた。ただし、2分で済む(34歳単身)」「一人暮らしを始めるときに炊飯器を買ったが、炊飯器やお米の袋を置いておくのが邪魔だし、2年で使わなくなった。そこからずっとパックご飯。(31歳単身)」と、包装米飯の味の良さと楽さに気付いてから自分で炊飯をしなくなっている。一方、冷凍ご飯のユーザーも、炊飯の手間と時間を冷凍ご飯を活用することで解消しようとしている。「冷凍ご飯は1回に5合炊いてきっちり二人分ずつ何日分かに分ける。炊いたご飯が一番おい

まれるから絶妙。(34歳単身)」「炊き立てのご飯は妙にたくさん食べてしまう。パックご飯は私にとっては腹八〜九分目。苦しい十分目にはならない。ちょうどよく食欲を抑えてくれる。(41歳既婚子なし)」と、食べ過ぎ防止に包装米飯が役立っていることが窺える。冷凍ご飯ユーザーは、そもそも炊飯の手間を減らす目的で冷凍ご飯を作っているが、好きな容量にできるの、食べる人や想定メニューに合わせて様々なサイズに加工している。「うちは二人分の量が明らかに違うので、自分のものは小さい茶碗で計り、夫のは夫の茶碗で計って作る。(41歳既婚子なし)」「私はあえていろんなサイズを作っておき、使い分けしている。(35歳既婚子あり)」「冷凍ご飯は個人の必要な量に合わせて小分けにすることが重要である。

好みのご飯を手軽に食べる —手間なく好きなご飯を食べたい包装米飯・こだわりの米を食べたい冷凍ご飯

近年、玄米・雑穀米などの米飯も、健康志向の広がりから消費が増えている。包装米飯ユーザーは、これらの玄米・雑穀米・炊き込みご飯などを包装米飯から選んでおり、選ぶ楽しさと手間を省くことを両立。「いろんな味を日ごとに食べられるのも楽しい。そんなにおかずが必要じゃない玄米ご飯、炊き込みご飯を買って、自分1人が食べるパックご飯なので、いかにおかずを少なく簡単に食べられるかが重要。(41歳既婚子なし)」「玄米は自分で炊くのも面倒。炊き込みご飯やおかずを作るのが面倒なとき、パックご飯を食べる。(68歳既婚子なし)」「ユーザーは味の違いを楽しむだけでなく、おかずを作る手間を減らすという面でも包装米飯のメリットを実感している。一方計画炊飯を行う冷凍ご飯ユーザーは、こだわりの銘柄や米どころから送られてくる米をお

いしく味わうため、保温をせず炊飯後に即冷凍している。「お米が好きでこだわりの銘柄があるので結構いろんな銘柄を買っている。炊き立てを超熱いまま手にミトンをしてでも冷凍したほうが保温ご飯よりおいしいと思う。(36歳既婚子あり)」「包装米飯ユーザーは、手軽に目先をかえてご飯をおいしく味わっているが、冷凍ご飯ユーザーは、こだわった米だからこそ炊き立てのおいしさを維持したいと気遣っている。

食べる人が異なる —主に自分が食べる包装米飯・家族に出される冷凍ご飯

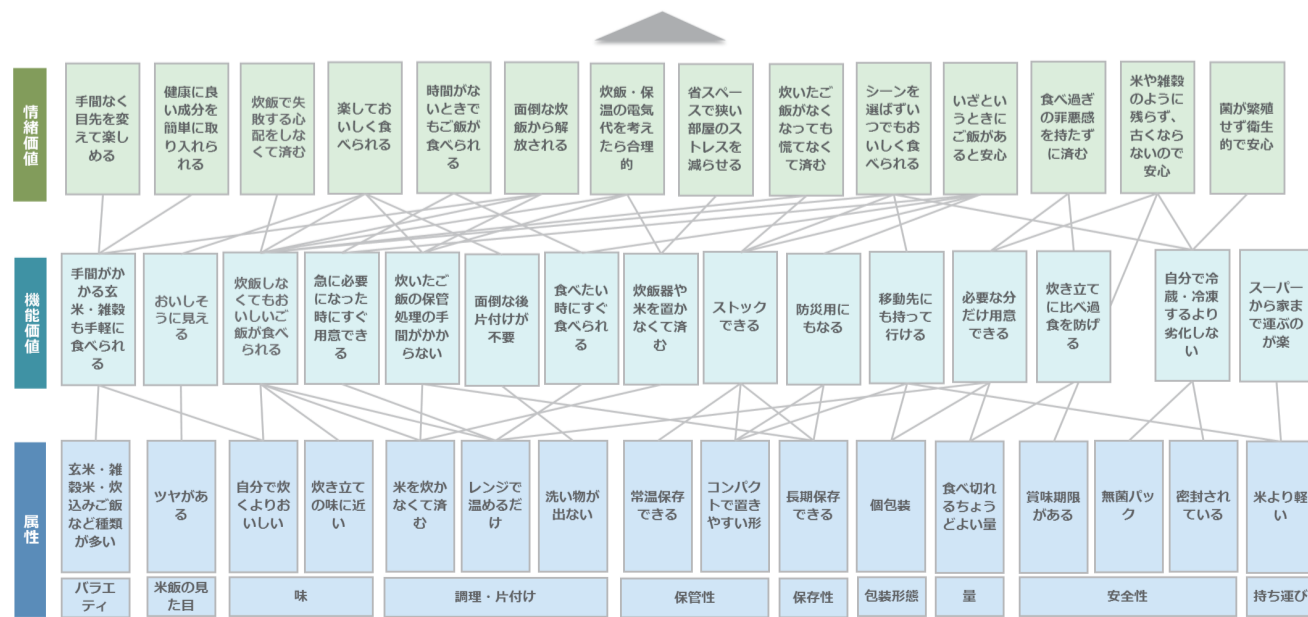
包装米飯も冷凍ご飯も「1食分だけ欲しい時に便利」という利便性は共通している。しかし、誰が食べるかで大きな違いが見られた。包装米飯ユーザーは、一人の時に包装米飯を食べることが多い。よって、自宅での昼食時や一人暮らしの夕食など、利用シーンも限られる。家族が揃う夕食時に登場するのはご飯が足りない時などだが、食べるのは主婦である自分がほとんどである。「子どもは食べたら分かるみたいで、パックご飯のほうがいいよね」と言う時がある。使用に抵抗がある。手抜きだから恥ずかしい。(45歳既婚子あり)」「包装米飯は手抜きイメージが強く、自分で米を炊かないことに対して罪悪感がある。一方冷凍ご飯ユーザーの中でも違いはあり、計画炊飯実施者は元々家族含めて利用するために作っているの、様々なシーンや食べる人に利用されている。一方、保温後の残りご飯を冷凍している人は、質が悪いからと家族への提供をためらうこともある。「おいしいご飯」としては食卓には出せないが、自分の分なら気にしないので、お昼のカレーや夜のチャーハンに使う。(35歳既婚子あり)」「冷凍ご飯については、作られ方によって、家族に堂々と出せるかどうかが変わるご飯である。

ユーザーにとっての包装米飯は、「面倒な炊飯の手間から解放され、楽しておいしいご飯が食べられる」ことがベネフィットになっている。個包装でストック性が高いことから、時間や空間に縛られずに米飯が食べられると、利便性の高さが支持されている。

インタビュー結果総括より

総括 価値構造化<包装米飯>

ユーザーにとっての包装米飯は、「面倒な炊飯の手間から解放され、楽しておいしいご飯が食べられる」ことがベネフィットになっている。個包装でストック性が高いことから、時間や空間に縛られずに米飯が食べられると、利便性の高さが支持されている。



経済性

—手間と電気代を考えたら高くない包装米飯・経済性から買わない冷凍ご飯ユーザー

米を炊かなくて済む分、省ける手間を「時間をお金で買う」として割り切っていたのが包装米飯ユーザーであった。一方、冷凍ご飯ユーザーは、包装米飯を「高い」として包装米飯の購入意向が低い。包装米飯ユーザーにとって、1個100円程度のコストは時間や手間を省くために必要な出費であり、その価値

に値するものと捉えている。「時間をお金で払っている。自分は楽をしているので、値段は気にしてない。(41歳既婚子なし)」「1食が100円ぐらい。炊飯器の電気代と手間暇を考えたら普通。(31歳単身)」「一方、冷凍ご飯ユーザーは、「パックご飯を買うくらいならおにぎりを買う(36歳既婚子あり)」「値段が高い。だったらコンビニのお弁当売場にある白ご飯を買う。(32歳既婚子あり)」「包装米飯は割高でそれほど魅力はなく、同じ費用を出すならコンビニのおにぎりや総菜の白飯を購入したほうが良いと捉えられている。

ユーザーにとっての包装米飯は、炊いたご飯と遜色なく、「楽しておいしく食べられる」非常に便利な米飯で、掛けたコストに見合う優れものである。しかし、炊飯の手間を省きたい冷凍ご飯ユーザーであっても、自分で炊くご飯より優位性を感じられなかったり、家族が多く経済的に見合うものでないなど、包装米飯への魅力は低かった。また、計画炊飯を行っていない人(冷凍用に炊飯を炊かず、余ったご飯を冷凍)は、非常用として包装米飯を低頻度で利用していることから、包装米飯の魅力をより実感できれば、喫食機会が増加する可能性もある。

【特集2】炊飯と包装米飯をめぐめる気持ち

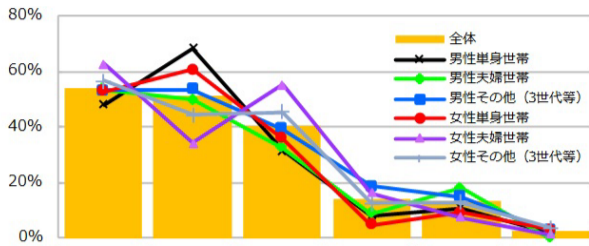
時間と手間のかかる炊飯を毎日行うのは難しい

包装米飯の利用が定着した理由の一つに、炊飯が大変時間と手間のかかる作業という認識があることがわかってきた。そこで炊飯にどのような思い込みがあるかを明らかにしてゆく。

●炊飯は大変なので毎日炊かない
簡便型の主食を使用している今回の対象者の中で、毎日炊飯している人は少なかった。米を研いで浸水させて炊くという作業は面倒、という意識が、その背景にある。「体をすく使う仕事で長いときは数時間になり、たくた。炊いたご飯が一番おいしいが、毎日だとしんどい。(冷凍ご飯ユーザー)43歳既婚子なし」
「ご飯が好きなので1日1回は食べないと落ち着かないが、2日に1回しか炊かない。炊くのが迷い、面倒くさいとバックご飯にする。(包装米飯ユーザー)52歳既婚子なし」
「ご飯は好きだが毎日炊けない。けれど1日1回は食べたいという希望を満たすため、一度に大量に炊いて冷凍したり、包装米飯を代用している。

●浸水は30分以上しなければならぬ
米は長く浸水しないとおいしく炊けないと思っているが、浸水にかかる時間が炊飯をする上でのハードルにもなっている。「自分はお米を研ぐのが面倒なので無洗米。でも30分漬けないと固くておいしくないの時間の余裕が必要。(冷凍ご飯ユーザー)32歳既婚子あり」
「今から1時間浸けると主人が帰ってきてしまふ、というときに今日は炊く

28年度定量調査より 包装米飯購入理由



	すぐに食べられるから	自炊するより手軽だから	災害などに備えた備蓄用として	キャンプなどレジャー用途として	おいしいから	その他
全体(n=1049)	54.3	51.5	40.4	13.9	13.6	2.6
男性単身世帯(n=108)	48.1	68.5	31.5	8.3	11.1	1.9
男性夫婦世帯(n=110)	53.6	50.0	32.7	9.1	18.2	0.0
男性その他(3世代等)(n=403)	53.3	53.8	39.5	18.9	15.1	2.7
女性単身世帯(n=64)	53.1	60.9	35.9	4.7	9.4	3.1
女性夫婦世帯(n=67)	62.7	34.3	55.2	16.4	7.5	1.5
女性その他(3世代等)(n=297)	56.6	44.4	45.5	12.5	13.1	3.7

※全体と比較して5%以上に対しオレンジに色付け

包装米飯の購入理由として、女性の夫婦世帯は「すぐ食べられるから」が62.7%で1位、女性の単身世帯では「自炊するより手軽だから」が60.9%で1位となっている。

きなければいけないので朝は炊かなくなった。(包装米飯ユーザー)58歳既婚子あり」など、朝から米飯を使いたいと思っても、炊飯時間がネックになっていた。そんな時に「周りの方から「残りご飯より、朝バックご飯でもお弁当に比べると」と聞いた。(包装米飯ユーザー)58歳既婚子あり」
「ことがきっかけで、お弁当に包装米飯を使うようになっていった。

●少量炊いてもおいしくない

家族が少人数で少量を炊くという人もいたが、多くはある程度の量を一度に炊いている。計画的な冷凍を除けば、「ご飯は少量炊いてもおいしくない」という認識が背景にある。「少なくとも炊くとおいしくないの、最低2合を炊きたい。(包装米飯ユーザー)52歳既婚子なし」と一度に多く炊いても、少人数だと余ってしまう。それに対し、包装米飯ユーザーは「冷凍してもおいしくない。(包装米飯ユーザー)31歳単身」
「炊いたご飯を保温しているのと電気代もかかるし、もう一回炊くのも面倒くさいし、置いておくと腐る。(包装米飯ユーザー)45歳既婚子あり」と、

味や手間の面で、冷凍も保温も避けている。包装米飯ユーザーにとっては、沢山炊く必要がなくおいしく食べられるという面で包装米飯の優位性が高い。

●炊き上がったらすぐ混ぜなければいけない

炊き上がったタイミンですぐ混ぜないとおいしくなくなる、という思い込みがあり、それが無理なので都度炊かずに冷凍するという意見も見られた。「炊き上がったらすぐ混ぜたいが混ぜてくれる人がいないので必然的に冷凍ご飯を作ることになる。(冷凍ご飯ユーザー)36歳既婚子あり」
この人にとって、炊き上がったら混ぜなければいけないという強迫観念は、冷凍ご飯を作る負担感を上回り、手間をかけても冷凍ご飯を製作する方向に向かわせている。

●炊き上がるまで時間がかかる
炊飯にも時間がかかるため、忙しい朝にご飯を炊く機会が減っている。中には、「炊きあがるまで2時間みないといけない。(炊飯器に)タイマーがなく、炊くためにはかなり早い時間に起

「包装米飯を使っている米すら炊けない」と見られるのが嫌で、人前で包装米飯が食べられない

包装米飯をよく使っているユーザーですら、一人の時にしか食べないという意見が多く見られた。そこで、どのような気持ちでそうさせるのかをひも解いてゆく。

●彼氏に見つかったら非常食だと言つ

包装米飯のおいしさや利便性を高く評価しており、常食しているユーザーでさえ、包装米飯を使っていることを人に知られたくないと思っている。この傾向は、特に40代以下で顕著であった。「ぼれないように彼氏が来たら炊飯器で炊いている。バックご飯は見られないように棚の一番奥にしまっている。もしみつかったら非常食だと言つ(34歳単身)」
「パッケージは全然かわいくないし、外では食べたくないし、人にも出せない。会社でそういうのを食べているのを見られるのは恥ずかしい。(31歳単身)」
「友達に家に来たら『今日チンするよ』とは言えない。主人に出すのもこっそり入れる。自分のものという感じ。(41歳既婚子なし)」など、皆一様に使っていることを隠していた。

●ご飯を炊くのは基本中の基本の家事。それができないと思われたくない

包装米飯の常食を隠す理由は、「ご飯を炊くのは生活の基本中の基本。女性でご飯を炊いてないと思われるのが嫌。家事できないんじゃないかと思われる。(31歳単身)」
「専業主婦なのにご飯さえ炊いてないの?」みたいな感じ。恥ずかしいのと、もし人に出したとき(手抜き)の罪悪感がある

(41歳既婚子なし)など、一番基本的で技術も不要な炊飯をしないII家事ができないというレッテルを貼られることを恐れているから

●調理スキルの差が包装米飯のイメージに影響

30~40代前半の包装米飯ユーザーは、炊飯の失敗がないので包装米飯を利用という声も複数から上がったように、炊飯レベルや調理スキルがあまり高くないと推察される。そのことがコンプレックスになり、包装米飯の利用について他人に話したり、家族に提供することのハードルになっていると

である。彼女たちの中には、家事ができないII女性としての能力が低いというコンサバティブな意識があり、人にそう思われてしまうことを極端に嫌がっていた。また、主婦では手抜きをしたという罪悪感が、包装米飯を家族に出すことをためらわせている。

思われる。ちなみに、50~60代の包装米飯ユーザーについては、インタビュー中にこのような話は一切出さず、外出先に持参したり家族にも食べさせたりなど、包装米飯を非常に自由に使っている。この年代になると、主婦としてはベテランの類に入り、高い調理スキルも持っているという推察される。よって、包装米飯を利用していることを知られても何ら自信を損なうものではなく、堂々と使っているのである。若年層への消費拡大を図るためには、これらのイメージの払拭と、新しい使い方の提供が非常に大切であると思われる。

インタビュー結果総括より

総括 炊飯に対する考え方と包装米飯のイメージ課題

包装米飯消費拡大のハードルになるものとして、特に若い女性の、炊飯に対する意識がある

炊飯 = 基本中の基本の家事。スイッチ一つなのにそれすらしないのは、家事一切が全くできないと思われるのではないかと。女性として恥ずかしい。

包装米飯を使っている = 炊飯も出来ない、と思われるのは嫌、でも炊飯する時間も手間もかけたくない

●包装米飯を使っているところは彼氏に見られたくない
●会社などにそのまま外に持って行くのは抵抗がある
●子どもに食べさせるのは手抜きのように申し訳ない
⇒ 一人で家にいる時の昼食や夕食で食べる

このことから、包装米飯の利便性だけでなく、イメージの転換を図るための訴求も今後は必要と思われる。

また、他カテゴリーユーザーから、

- ・かなり日持ちがするので、色々な添加物が入っていて体に悪そう
- ・開けた時に薬っぽい臭いがある
- ・食感がべたっとして柔らかすぎて好みでない
- ・四角いかたまりのまま容器からとれるので、茶碗に移すのが手間
- ・レトルトカレーと食べる時、別の容器に移さなければならぬのは面倒
- ・パッケージがおしゃれでない

といったネガティブな意見も複数上っており、今後の課題であると思われる。